

優勝、  
そしてJ1昇格へ益城町で始めたサッカー  
プロデビューから10年

令和5年、プロ10周年の節目を迎えた、ロアッソ熊本の上村周平選手。自身最多となる40試合に出場し、2得点を挙げる活躍を見せました。

3人の兄が空手や野球を習う中、末っ子上村選手がサッカーを始めたのは小学1年生の時。友達に誘われ、当時広安グラウンドで練習していた太陽スポーツクラブに入ったのがきっかけでした。小学3年生から、クラブの練習がない日は広安西小の部活で練習。10歳の時に書いた、10年後の自分への手紙に、プロサッカー選手になることを記していたといいます。

ロアッソ熊本ジュニアユース、ユース、2種登録を経て、平成26年にプロ入り。Jリーグデビューは同年、水前寺競技場で行われたカタール・富山戦でした。

「試合前日、メンバー表で自分の名前を見つけた時から、緊張が止まりませんでした。

途中出場で名前を呼ばれた時の緊張は、今も覚えています」

ストイックな体づくり  
父の影響を受けて

上村選手は、「けがなく戦える体づくり」を目標に掲げ、日々トレーニングに励んでいます。そのストイックさは、スタッフなど周りの人たちから「少しは体を休めたほうがいいのでは」と心配されるほど。しかし、本人は「実家の庭にトレーニング器具があり、父が毎日体を鍛えています。そんな父を見ているので、自分はまだ足りないと思うほどです」と話し、「父のことを本当に尊敬しています」と続けます。

最後に「活躍し、いいニュースを届けることで、益城町を盛り上げることができればと思います。その姿を見て、プロを目指す人たちが増えてくれればうれしいです」と笑顔を見せた上村選手。悲願のJ1昇格へ。来季の活躍に期待が高まります。

下段写真左から／レノファ山口FC戦でゴールを決めた／チームメートと共に／FC町田ゼルビア戦、中盤から冷静にボールを配給(全て©AC KUMAMOTO)

